

平成30年度定例会6月会議開会挨拶：瀧川議員追悼（平成30年6月19日）

福島町議会の同胞であります瀧川明子議員が、5月16日、不慮の事故により急逝されました。

大きな悲しみであります。

瀧川明子議員は、平成3年の初当選以来、27年5ヶ月の長きに亘り福島町議会唯一の女性議員として、町内の女性をはじめ多くの住民の声を町政に届け、生活視点のまちづくりにご尽力されました。

また、福島町議会、「議会改革の集大成」として「開かれた議会づくり」の実績を組込み平成21年制定された「福島町議会基本条例」の取りまとめにあたっては、議会運営委員長として多大な貢献をされました。

何事にも動じない屈強な精神力と慈愛の心で住民に接し、議員活動にひたすら精励された故人のご功績を称え、そのお姿を偲び、安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

瀧川明子議員が、活躍された、この福島町議会議場において、感謝と敬意の気持ちを込めて、謹んで哀悼の弔意を表し黙祷を捧げたいと思います。

.....

平成30年度定例会6月会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

6月12日開催の第69回北海道町村議会議長会定期総会の決議は、「地域間格差が広がる中、北海道の町村議会はあるべき地方自治の姿を目指し、多くの課題に真摯に取り組んできた。しかし、今日、期待された地方分権改革の先行きはおぼつかないばかりか、停滞感を否めないでいる。住民の手が届く自治の確立が望まれる。われわれ地方議会人は、今後とも地域住民の代表たる自覚を一層深め、清新で活発な議会活動に努めるとともに、住民の負託に応えなければいけない。そして、次の課題解決に向け、われわれは総力を結集するものである。」とし、

- ① 町村議会の活性化と議会の権限の拡充
- ② 地方創生と地方分権改革の推進
- ③ 町村税財政基盤の確立等

14項目の一般決議と渡島議長会からの北海道新幹線の新函館北斗・札幌間の着実な事業推進、松前半島道路の松前側からの早期整備をはじめ、14件の要望提言を北海道町村議会議長会の総意として満場一致で採択いたしました。

平成21年度に制定された議会基本条例については、諮問会議において、「議会基

本条例の制定以降、改革が進んでいるが、改革の内容が多岐にわたり細くなるにつれて全体像が見えにくくなっていることから、関連する条例等を確認し、本文に掲げた方が良いと思われる内容がないか検討・整理し、条文と規則などの関連が一目でわかるよう関係図を作成すべき。」との指摘があり、今任期中に関連規定とともに整理調整・改正することとして作業を進めております。議運、諮問会議に素案を示しながら調整をし、一定の段階に全員協議会で検討いただき、執行部側と調整しながら、新年度の施行を目指してまいります。

総務省の有識者研究機関が、「兼職禁止の制限緩和」・「専門議員による集中専門型」を盛り込み、自治体の選択を加味した新制度を提言し、地方自治法改正を目指すとの報道が続いております。

地方創生を推奨する状況下で、多様な地方の意見を積み上げることなく、公開もせず、国が主導で進めたことに違和感を覚えますし、全国町村議会議長会が提議しているように、その前にそれぞれの分野で成すべきこと、できることがあると思います。

過疎少子高齢化が進行する状況下で、厳しい背景として議員のなり手不足があるとしておりますが、町村総会設置条文の趣旨に沿うような極小自治体であるのか、直接民主制で活性化されるのか、数百人といえども限られた時間での採決が可能なのか、そもそも、持続するための住民が納得する議会改革など自ら手を尽くしてこられたのか疑義が尽きず、町村総会での議論の深化を期待することも現実的とは言えないと思慮いたします。

当議会としては、これまで真剣に取り組んできた議会改革により町民に一定の理解が得られていることなどからも、国の主導による改革ではなく地方から声を上げるべきであり、個々の議会・自治体が、当事者として問題意識をしっかりと持ち、取り組んでいかなければならないと考えております。

出席者各位には、本 6 月会議の議事運営にご協力いただきますようお願い申し上げ、活発な討議が展開されますことを期待して開会の挨拶といたします。